

働きやすい都市 熊本

～強い熊本が未来を紡ぐ～

熊本県立大学/タッチー&源(行政学研究室)/

久保源大 立花祐貴 猪本柊太 藤山姫美奈

地域課題の選択 ②【熊本市】熊本市における人口減少対策に資する取組について

1. はじめに

私たちの住む熊本市が持続可能な発展を続けるために、②熊本市テーマへ取り組むことで、より良い熊本市を目指すことに貢献したいと思い、本コンテストに参加した。

熊本市における人口減少に適応・抑制するためには、本市で働くことを選ぶ若い世代が増えることが重要な要素となる。それには「熊本市に拠点を置く企業について知る・体験できる機会を創出する」ことが欠かせない。そこで本報告は、熊本市の将来を担う熊本市内外の若い世代の、市内からの流出を防ぐとともに本市への流入を促すための解決策として「熊本市の企業を手軽に、かつ本格的に知る・体験する機会の創出」を提案する。

2. 問題分析/調査内容

(1) 現状分析

令和6年熊本市人口ビジョンによると、熊本市の年代別の地域別転入転出状況は、25～49歳の九州内・県内他地域からの転入が要因となり、増加傾向であることが分かる。しかし、15～24歳は転出数が転入数を上回り、関東圏、近畿、福岡などの都市圏への流出が目立つ。熊本市全体としては社会増の動きになっているが、15～24歳の若い世代の転出が問題である。

(2) 原因分析

熊本市の人口減少の分析に関する資料によると、20～40代の転出者の転出理由では「熊本市外に働きたい職場があったため」「進学先で就職したかった」等の回答が約3割と大きな割合を占めている。さらに、

転入者の「熊本市に働きたい職場があったため」「進学先で就職したかった」等の回答は約1割に留まるという結果であり、熊本市企業の魅力が伝えられていないと言える。また、大学生・専門学生の「熊本市から離れる理由」の中には「大都市で暮らしたい」「他の場所で何かにチャレンジしたい」という声が多く¹⁾、将来の就職先の選択肢として熊本市を選ばない若者が増えていることが分かる。

更に詳細に熊本市における求職・求人状況や雇用形態ごとの需要を調査するため、ハローワークでヒアリングを実施したところ、「求職者側と求人側のニーズにずれがある」「職種ごとの求職者のばらつきがある」「正社員雇用であっても、理想の職場でなかったことから数日で仕事をやめてしまう人がいる」ということが分かった。あくまでハローワークで求職する人の傾向ではあるが、大人でもニーズのずれ・ばらつきがあるならば、社会経験の少ない高校生や大学生でも同様かそれ以上のずれが生じていると考えた。以上のことに合わせて、近年のスキマ時間バイトや業務分担の需要の高まりからも、学生向けのワークシェアリングサービスの利用可能性を検討した。

3. 課題に対する解決策と具体的な政策アイデア

(1) 先行事例

以上の問題分析を参考に、先行事例として熊本県南小国町でも導入されている「しごとコンビニ」を挙げる。本取組は、事業主の業務を細分化することで、高齢者や子育て世代などが、短時間に仕事で報酬を得られる業務委託型の仕事仲介を行う仕組みである。求職者と人手不足の人材とを繋ぐ取組として2020

年グッドデザイン賞を受賞した実績を持っている²⁾。

(2) 課題解決の方向性

上記の先行事例を参考にし、学生が熊本市で実務的に仕事を体験できる機会を創出するために「キャリアモール」という求職・就活システムを構築し、若者の市外転出を防ぎ、転入の動きも加速させる。学生の就活の選択肢を増やすことに加えて企業の人材確保を目指すことができるような政策を検討する。

(3) 具体的な政策提案

キャリアモールの主な機能は、以下の3点である。

- ①人手不足、作業分担のニーズがある企業と学生がマッチして短時間の労働を提供・実施する。
- ②サポーターによる相談会実施や実務に向けた研修などを行う。
- ③就活の差異にもスカウト機能や就活支援の研修などとしても利用可能である。

先行事例で取り上げた「しごとコンビニ」との違いの1つ目は目的である。キャリアモールの目的は、学生の地元での仕事体験機会の創出による人口維持、企業の業務効率化である。2つ目は対象であり、しごとコンビニの対象者のみでなく、求職活動を行う高校・大学生をも対象とすることで若者の県外流出の防止策とする。3つ目は業務内容で、労働時間はアルバイト程度を想定しているが、仕事内容は専門性のある仕事も含むものとする。熊本市は他の先行地域より規模が大きいため、選べる職種も増加し、選択肢も増えると考えられる。4つ目はサポート面であり、学生を対象に加えたため、就活までの支援も行う。ジョブカフェ・ヤングハローワークなどの既にある団体等と協力することで支援体制を充実させることができる。

(4) 実現可能性を高めるための取組

しごとコンビニの立ち上げサポートのプランを活用することで、コストが抑えられる。さらに、実装に当たりグループウェアの利用が必須であるが、既存のものを利用するためアプリ開発などの大きなコストもない。コストを抑えるだけでなく、効果を確実にするため、企業規模を小企業レベルに、また利用対象者もアルバイト従事者が多い大学生に絞ってスタートする。さらに、サポーターが必要であるため、人材不足の発生も考

えられるが、利用者の拡大に合わせて NPO 法人や関連団体へシステムを委託する形で継続させる。キャリアモールの認知度向上のためには広告戦略は、熊本市合同企業説明会の場を利用したり、学生に周知するため Instagram 広告を活用することとする。

(5) 期待される効果

求職者のメリットとして、収入を得ながら仕事を探すことができることが挙げられる。短い時間でも働きやすい環境であるため、対象の拡大によっては仕事に復帰する第1歩となりうる。結果的に、熊本市の企業の魅力に触れる人が増え、就職につながり市外への転出の減少が期待される。企業側では、ワークシェアリングにより労働者の負担が軽減されるため、仕事の効率が向上する。企業の宣伝になり採用活動につながるというメリットがある。それにより、熊本市は今までよりも働きやすい都市となり、それが子育てに割く時間の増加につながり、熊本市の子育て政策などの既存の取組がより生かされると考えられる。

4. まとめ・今後の展望など

私たちは、「キャリアモール」を導入することで、若者が熊本市で地元・UIJ ターン就職することによって社会増を加速させることではないかと期待する。また、労働人口の増加による一時的な人口の増加や減少への適応だけではなく、それによる働き方の多様化や地域経済の活性化と併せて結婚子育ての政策も充実させることで、自然増を増やす長期的な対策も同時に進めるべきである。

最後に、今回の政策アイデアコンテストに参加したことにより、熊本市が抱える問題を再認識し、課題解決能力を高める貴重な機会となった。これからも能力にさらに磨きをかけ、社会に貢献できるような人材に成長したい。

主要参考文献

- 1) 熊本市(令和6年3月)「熊本市人口ビジョン」
- 2) 一般社団法人つながる地域づくり研究所「しごとコンビニ:ひとを育て、しごととつなぐ」(2024/9/03 確認:<https://shigoto-conveni.jp/>)